

3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。

なりたい自分をデザインする
丸の内キャリア塾
Marunouchi Career Academy



公益社団法人日本産科婦人科学会・公益社団法人日本産婦人科医会

女性の健康週間

産婦人科医は、女性を守り続けます。
— 生涯主治医がいる安心を —

2021年 女性の健康週間 丸の内キャリア塾 スペシャルセミナー

女性のライフデザインと リプロダクティブヘルス

～今こそ考えたいトータルヘルスケア～

開催概要
プログラム
のご案内

仕事に、家庭に、プライベートに…と頑張る日々。カラダのことは考えていますか？
女性特有の不調や疾患をそのままにせず、もっと自分らしく過ごすために
今からできる“女性のカラダ”のとおき役におきの役に立つ情報をお伝えします！

オンラインライブ配信（無料）

事前登録制

申込締切

※どなたでも
ご視聴いただけます。

2月24日（水）

日時：2021年 3月3日（水）18:00～20:40

お申込みサイトはこちら ➡ <https://events.nikkei.co.jp/34561/>



[オープニングセッション]
リプロダクティブヘルス総論

18:00～18:30



リプロダクティブヘルス： 日本の社会が抱える課題

北里大学医学部 産科学 教授 **海野 信也** 先生

月経困難症

18:30～19:00



生理痛を諦めない 様々な選択肢

丸の内森レディースクリニック 院長 **宋 美玄** 先生

漢方

19:00～19:30



鉄子になろう ～漢方は女性を見過ごさなかった～

稚枝子おおつきクリニック 院長
東京女子医科大学産婦人科 非常勤講師 **武者 稚枝子** 先生

19:30～19:40

休憩

子宮筋腫＋不妊

19:40～20:10



女性の3人に1人に見つかる 「子宮筋腫」とは？

東京大学大学院 医学系研究科産婦人科学講座 准教授 **甲賀 かをり** 先生

更年期

20:10～20:40



もしかしてこれって更年期障害？ ～そうか産婦人科に行こう！～

女性のための統合ヘルスクリニック
イク表参道 副院長 **高尾 美穂** 先生

※プログラムは変更する可能性があります。

主催：日本経済新聞社 メディアビジネス イベント・企画ユニット

共催：公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本産婦人科医会

広告協賛：バイエル薬品株式会社、株式会社ツムラ、あすか製薬株式会社、富士製薬工業株式会社

後援

厚生労働省、内閣府、日本医師会、日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、日本学校保健会、全日本私立幼稚園PTA連合会、日本周産期・新生児医学会、日本女性医学学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本産婦人科乳腺医学会、日本思春期学会、日本女性心身医学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、日本妊娠高血圧学会、日本婦人科がん検診学会、日本母性衛生学会、日本卵子学会、日本エンドメトリオーシス学会、日本産婦人科手術学会、日本受精着床学会、日本生殖免疫学会、日本母体胎児医学会

3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。

日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会は、産婦人科医が女性の健康を生涯にわたって総合的に支援することを目指し、3月3日ひな祭りを中心に、3月8日国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、2005年にその活動を開始しました。2008年からは、厚生労働省も主唱する国民運動として、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するため、国や地方公共団体、関連団体が一体となり、さまざまな活動を展開しています。

ご挨拶

今年も女性が健康に活躍できる社会を目指す女性の健康週間の催しとして丸の内キャリア塾を開催します。昨年初頭よりのコロナ禍で、多くの方々が様々な不安を抱かれています。この大変な状況でも女性のリプロダクティブ・ヘルスを守り、より推進したいと思っています。今年は月経の問題・更年期の問題・子宮筋腫・漢方など、様々な年代の女性にとって身近な話題でスペシャルセミナーを行います。女性の皆さんが生き生きされると国じゅうが元気になると思います。コロナ禍により開催形式が流動的ですが、専門家として正しい知識を伝え、皆さまがご自身の健康と向き合う良いきっかけになれば幸いです。

日本産科婦人科学会 理事長 **木村 正**

女性の一生は、女性ホルモンの分泌に始まる思春期から、排卵そして月経が確立する長い性の成熟期を経て、更年期を迎え、そして閉経期に至ります。このような年代ごとの心身の変化をみても、女性の皆様は、良きにつけ悪しきにつけ、女性ホルモンの大きく影響される一生なのです。女性の優しい美しい皮膚の輝きは女性ホルモンによるものです。しかし、思いがけなく月経痛が強く、経血量も多くなる子宮内膜症・子宮腺筋症や子宮筋腫も女性ホルモンのせいです。そして、卵巣の働きが終わりごろになると、閉経となり、女性ホルモンが不足するために起こる更年期障害を感じる人も出てきます。お仕事をされている皆様は、心身ともに快適な日々を過ごしたいと考えていることでしょう。

今日は、子宮筋腫と更年期のお話を聞いてもらい、正しい知識を得て、安心して対処してください。私どもは、女性の皆様の永遠の応援団として支援したいと考えています。

日本産婦人科医会 会長 **木下 勝之**

講師プロフィール



海野 信也 先生

北里大学医学部
産科学 教授

わが国では、女性が納得して人生を前向きに生きていくことが難しい、それがわが国の極端な少子化の進行にもつながっていると考えられます。日本産科婦人科学会では、新たにリプロダクティブヘルス普及推進委員会を組織しました。今後は医学・医療の発展だけでなく、性と生殖に関する健康確保のための活動を積極的に進めてまいります。



宋 美玄 先生

丸の内森レディースクリニック
院長

周産期医療、出生前検査を中心に診療しながら、女性の健康、妊娠出産育児についてメディアでの情報発信を行っている。働く女性のかかりつけ医となるため丸の内森レディースクリニックを開院した。



武者 稚枝子 先生

稚枝子おおつきクリニック 院長
東京女子医科大学産婦人科 非常勤講師

「女性が元氣だと家庭も職場も地域も社会全体が元氣になる」を信念に診療しています。女性が心身に不調をきたすには理由があります。理由がわかれば対処法が見つかります。本来の笑顔に早くもどるよう願っています。



甲賀 かをり 先生

東京大学大学院
医学系研究科産婦人科学講座 准教授

東大病院で長年に渡り、子宮筋腫をはじめとする婦人科疾患の治療や研究に従事。ホルモン治療、内視鏡手術、不妊治療にたずさわる。女性の健康リテラシー向上のため、学生や一般市民を対象とした講演、執筆なども精力的に行っている。



高尾 美穂 先生

女性のための統合ヘルスクリニック
イーク表参道 副院長

大学院では卵巣がんの遺伝子変異について研究。現在は女性のためのクリニックで外来診療の傍ら、スポーツドクターとしての女性アスリート支援、産業医としての働く女性支援など、幅広く多角的に女性のよりよい未来のため発信を続けている。

お問合わせ

「丸の内キャリア塾 スペシャルセミナー」事務局(株)日経イベント・プロ内
E-mail:marunouchi@nex.nikkei.co.jp